

キャラクター名  
燈鏡 悠

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス		ワークス	元F HチルドレンB	カヴァー	高校生
	エンジェルハイロウ					
オプション			年齢	17	性別	男性
覚醒	犠牲	衝動	解放	初期侵食率	34	%
出自	待ち望まれた子	経験	仲間の死	邂逅	腐れ縁	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	3
肉体	1		0			1	行動値	17
感覚	5	1	0	2		8	(非装備時)	17
精神	1		0			1	戦闘移動	22
社会	1		0			1	全力移動	44

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	6		RC	1		交渉		
回避	1		知覚	6		意志	2		調達	1	
運転:			芸術:			知識:レネゲイド	1		情報: F H	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ハンドレッドガンズ	射撃	8r+6	0	9		
	射撃	8r+6		10		侵蝕率100%
スプリット・レイ	射撃	8r+6		19		《C:エンハイ》+《小さな塵》
	射撃	8r+6		22		侵蝕率100%

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
祈りの造花		8	0	0	《ハンドレッドガンズ》Lv5で取得

所持品	
エンブレム:ドロップアウト	
エンブレム:命の終着	
エンブレム:ギャランティプラス	
コネ:情報収集チーム	
思い出の一品	
携帯電話	

合計装甲: 8    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
遺産継承者	P	N		
過去に残る負の記憶	P	執着	N	憎悪
龍胆朱音	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
C:エンジェルハイロウ	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果: C値-する。(下限値7)								
L:エンジェルハイロウ	3	2	リアクション	至近	自身	-	2	
効果: C値-Lvする。(下限値7)								
ハンドレッドガンズ	5	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 武器作成する。								
神の眼	1	1	リアクション	至近	自身	対決	-	
効果: <知覚>によるドッジ判定が行える。								
小さな塵	5	2	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果: 攻撃力+[Lv×2]する。								
スピットファイア	5	3	Xジャー	武器	単体	対決	リミット	
効果: 前提条件:《小さな塵》 攻撃力+[Lv×3]する。ただし、判定ダイス-2個される。								
サポートデバイス	4	6	セットアップ	至近	自身	自動	80%	
効果: このラウンドの間、【感覚】を使用した判定ダイス+[Lv×2]個する。1シナリオ3回まで使用できる。								
ミラーコート	2	3	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果: そのシーンの間、あなたが行なうドッジのダイス+[Lv+2]個する。								
贗作師	1							
効果:								
万能器具	1							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

小さな頃の僕は何事もなく幸せな日々を送れるモノだと思っていた。毎日笑って怒って泣いて喧嘩して・・・最後に仲直りをして、お互いに笑い合った日々が。そんな何気のない日々を送っていたけど、僕は転校する事になった。そこでも、友人が出来た。少し違うのは、転校する前にオーヴァード?として覚醒したくらいだった。最初は、F Hって何?など不安でいっぱいだったけど・・・助けてくれる仲間がたくさん出来たし、助け合った。戦闘訓練やら能力を強化する訓練とか厳しくて辛かったけど、ウィンドマスターは怖かったけど良い人にも思えた。

あの日は悪夢の始まりだった・・・内容はF Hチルドレンの訓練生を実戦的に鍛えるモノと聞いていた。だがしかし、それは嘘だった。あるF Hエージェントの毒薬と言わなければならない計画だった。その中で、レネゲイド安定剤と言われる薬のようなモノを投与される班とされない班の二つに分けられた。訓練開始直後、それは起こってしまった。その薬を投与された訓練生がみるみると化け物以外の説明の出来ない姿に成り果てるのを・・・そして、化け物が投与されてない訓練生を無差別に殺戮している姿を・・・化け物になった誰かが大事な仲間を殺すのを見過ごせなかったせいで、誰かを殺めてしまった。仲間を守りたい一心で、戦った沢山の訓練生だったモノを殺した。そして、最後に悪辣な笑みを浮かべ嘲笑うような声と共にアイツが現れた。瀕死になって今にも死にそうな親友を助けたい一心で、僕はどうなっても良いから助けてやってくれ!!!と叫んだ。そんな姿を見たヤツは、「では、治療薬を投与してあげましょう。」とても愉快な表情で言ったヤツを信用したのが失敗だった。傷はみるみると癒え、間に合ったと安堵した。これで命懸けで守ったみんなと帰れるなんて夢を見ていた。それすらも、アイツは踏み躪った!化け物と成り果てようとした仲間は「お前だけでも生きて欲しい。だから、殺してくれ!」と懇願された。そんな戦友と呼べる者や仲間や親友を自分の手で全員殺してしまった。アイツだけは僕の手で殺さなければ!!!とアイツが居た場所を見るとヤツは逃走していた。あのマスターエージェントは居なくなっていた。